



コミュニケーション・オン・エンゲージメント(COE)

本 COE が対象とする期間

開始日:2020年9月15日

終了日:2022年9月25日

パート1. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの支持の表明

2022年10月1日

ステークホルダーの皆様へ

私たちは、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク(以下、SDGs ジャパン)が
人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクト 10 原則を支持
することをここに確認し、ここに表明いたします。これは、国連グローバル・コンパクトに
対する当団体のコミュニケーション・オン・エンゲージメントです。皆様のフィードバック
をお待ちしています。

このコミュニケーション・オン・エンゲージメントでは、当団体をはじめとする各種組織
に対して提案された国連グローバル・コンパクトおよびその原則を支持するために当
団体が行った取り組みについて説明しています。また、当団体の主要なコミュニケー
ション媒体を通じて、当団体の取り組みを積極的にステークホルダーの皆様公表
していきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク
共同代表理事 大橋正明

共同代表理事 三輪敦子

パート II. 取り組み状況

SDGs ジャパンは、以下の活動を通して国連グローバル・コンパクトの原則を推進しました。

2021年に国連で開催された閣僚級ハイレベル政治フォーラムにおいて日本政府が2回目のVNRを発表したことに合わせ、市民社会の視点でSDGsの現状と課題の評価を行い、「SDGs スポットライトレポート 2021」を作成しました。この中で、目標ごとの進捗を正確に把握するためにはグローバル指標のデータ公開を進めることが重要であると、存在するデータの即時公開と、データが存在しない場合の「公開する時期」の設定および国内の代替指標の活用の検討を提言しました。

2022年7月に、政府SDGs推進本部が設置するSDGs推進円卓会議の民間構成員が主催する「SDGs実施指針に関するパートナーシップ会議 2022(第1回)」が開催されました。本会議構成員である三輪敦子SDGsジャパン共同代表理事をはじめ、多くのSDGsジャパンのメンバーが参加しました。

2021年4月にSDGsジャパンは、「持続可能な開発目標に関するハイレベル政治フォーラム(HLPF)に関する市民社会と関係府省庁の意見交換会」を開催しました。市民社会から約30名、政府から約40名が参加し、日本のSDGsの進捗をまとめる自発的国別レビュー(VNR)について意見交換をしました。SDGsジャパンは、①「誰一人取り残さずに」貧困と格差を根絶することがSDGs推進の核であるとVNRに明記すること、②SDGsの各ターゲットについて早急に日本として達成すべき数値目標を設定すること、③目標値とのギャップ分析を行い、求められる行動や課題を明確にすることなどを提言しました。市民社会を含むステークホルダーと共に、モニタリングおよびフォローアップの枠組みと機会を設定することなどを提言しました。

国連人権理事会で承認された「ビジネスと人権に関する指導原則」の実現に向けた国別行動計画が2020年に策定されました。この実施にあたり「ビジネスと人権市民社会プラットフォーム」は、市民社会を含む多様なステークホルダーが参加する人権デューデリジェンスの実現と、行動計画の着実な推進を目的に活動をしています。SDGsジャパンはこのプラットフォームのメンバーです。

SDGs ジャパンは2018年から毎年、「SDGs ボトムアップ・アクションプラン」を発表しています。これは、SDGs ジャパンに参加する多分野の団体からの政策提言をもとに、市民社会視点からの「誰一人取り残さない」SDGsの達成に向けた具体的な政策/施策をまとめたものです。SDGs ジャパンはこの政策提言集を政府SDGs推進本部事務局である外務省地球規模課題総括課に提出し、政策対話を進めています。

パート III. 成果の測定

以下を国連グローバル・コンパクトの原則の実施に向けた成果とします。

- ・2021年のHLPFで発表された日本のVNRの作成に向けて、貧困と格差をはじめとする日本のSDGsの進捗評価と提言に関する、市民社会と日本政府の意見交換会を実施しました。VNRには市民社会からの提言が記載されました。

- ・市民社会からの政策提言集「SDGs ボトムアップ・アクションプラン 2020」を、政府や政党/議員、アカデミアや市民社会組織などに1,000部配布しました。2021年版は、印刷物の配布に加え、オンラインでデータ公開をし160の個人および団体からアクセスがありました。

- ・2020年度に発表したコロナとSDGsに関するSDGs ジャパンからの5回の声明と、連携団体のコロナ声明一覧をウェブサイトに掲載し、合計21,000のアクセスがありました。

- ・SDGs ジャパンが主催もしくは共催をしたイベントを報告期間で9回実施しました。また、政策提言の機会として政党とのSDGs勉強会を12回実施しました。